

わすらぎ通信

第7号 (平成23年6月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

水無月(水月)

夏は来ぬ

作詞 佐佐木信綱 作曲 小山作之助

- 1 卯(う)の花の匂う 垣根(かきね)に
時鳥(ほととぎす) 早(はや)も来(き)鳴きて
忍(しの)び音(ね)もらす 夏は来ぬ
- 2 五月雨(さみだれ)の 注(そそ)ぐ山田に
早乙女(さおとめ)が 裳裾(もすそ)濡(ぬ)らして
玉苗(たまなえ)植(う)うる 夏は来ぬ
- 3 橘(たちばな)の薫(かお)る 軒端(のきば)の
窓近く 蛍(ほたる)飛び交(か)い
おこたり諫(いさ)むる 夏は来ぬ
- 4 棟(おうち)散る 川辺(かわべ)の宿の
門(かど)遠く 水鶏(くいな)声して
夕月(ゆづしき) 夏は来ぬ
- 5 五月闇(さつきやみ) 蛍飛び交い
水鶏(くいな)鳴き 卯の花咲きて
早苗(さなえ)植えわたす 夏は来ぬ

(注) 卯の花は、ウツギの花

玉苗は、早苗と同じで、稲の苗を美しく表現した言葉

橘は、みかんの木の古名

棟は、センダンのこと(センダン科の落葉高木)

水鶏は、クイナ科に属する夏鳥の総称

五月闇は、梅雨時の夜がとりわけ暗いことを表現した言葉

あれほど待ち遠しかった春も到来すればあっという間に過ぎ去り、季節はまた一つ前に進みました。万代池のビオトープに咲いているカキツバタの鮮やかな青紫も今やピークを過ぎようとしております。

しかし、池は、新しい季節の到来に合わせ、春とは違った魅力的な姿と雰囲気をお私たちに提供してくれています。色やさしい様々な種類の木々がおりなす若葉の色とかおりは、若々しい生命の息吹を一面にたたえ、私たちをやさしく包んでくれます。

また、そのことにより、私たちも、とてもやさしくなれるような気がします。人と自然との関係について、今回の大震災により多くのことを考えさせられるようになりました。

万代池も小さな自然かも知れませんが、この大都会の中にあるオアシスとして毎日私たちにそのことを考えさせてくれるような気がします。

皆様方いかがお過ごしですか。無病のかたも有病のかたも、息災でこれからの梅雨、そして暑い夏を過ごしていきたいものですね。

府立5病院として震災発生以来続けてまいりました岩手県釜石市と大槌町に対する医療支援活動は、現地の医療機関の診療が徐々に復旧してきたこともあり、岩手県と大阪府の話し合いにより5月18日をもって終了しました。最後のチームとなった成人病センターは後継活動を日本赤十字病院に託して19日に現地を離任しました。

この間、当センターにおきましては、震災発生直後のDMAT隊(災害派遣医療チーム)の2班の派遣に続き、3月24日から合計5チームの派遣を行い、現地の避難所等での医療支援活動に従事してまいりました。

復旧段階での支援活動はこれで終了しますが、今後復旧から復興段階に移行するなかで、新たな支援要請が行われた場合は、大阪府と十分連絡をとり、私どもとしまして、出来る範囲で積極的にご支援を継続してまいりたいと考えております。

さて、今月の歌は「夏は来ぬ」を取り上げましたが、大阪にとりまして「夏」と聞けばやはり祭りではないでしょうか。大阪は、実は全国でも夏祭りの数がずば抜けて多い「夏祭りの宝庫」のまちだと言われております。

大阪の夏の祭りと言え、なんとといっても、まず天神祭りを上げなければなりません、7月を中心にした大阪の夏祭りの幕は、今月からはじまる、愛染祭り(勝鬘院・愛染堂の祭礼)から切って落とされます。

「大阪の夏祭りは、愛染さんから始まり、住吉さんで終わる」というのが、大阪人の合言葉となっています。愛染まつりは6月30日、住吉大社の夏祭りは8月1日の神輿渡御際(みこしとぎよさい)でクライマックスを迎え、大阪の熱い夏祭りの終わりを告げます。

この愛染さんから住吉さんまでの約1月の間、大阪では連日のようにどこかで各種の祭りが続きます。大阪ブランドコミッティという組織が調べたこの期間の祭礼日数は27日、祭礼の数は実に94もあるそうです。

この大阪ブランドコミッティの資料によれば、もともと日本の祭りは、春秋の祭りから始まったとされています。春秋の祭りは、農耕と関係が深く、地方地方で春には農耕の稔りの予祝として、秋には収穫への感謝を捧げる祭りとして発展し、次いで、農閑期の冬に冬の祭りが行われ、夏の祭りは一番あとで発展してきたそうです。そして、夏祭りは、農耕的祭事とは離れて、住吉大社の茅（ち）の輪くぐりのように、疫病や飢饉の災難からも逃れられるようにとの願いが込められた祭りであるという特色を持っているそうです。

そういった点で夏祭りは人々の密集する都市型の祭礼であるとされ、近世の大阪は人口40万人を擁する大都市であったことから、多くの夏祭りが生まれ発展したということのようです。さらにこの資料を読み進んでいくと、大阪の夏祭りに関して以下のような興味深いことが書かれております。かつて近世の大阪には北組・南組・天満組を合わせて三郷があり、その三郷に鎮座する天満宮、御霊、座摩、難波、生玉、玉造稻荷、高津、御津八幡、難波八坂の9社の祭りが、すべてこの時期に行われ、その代表格が大阪天満宮の天神祭りです。天神祭りでは、ご存知の通り、24日の鉾流し神事で幕を開け、翌25日の陸渡御を経て、船渡御で祭りはクライマックスに達します。

大阪では、こうした大阪中心部の祭りに加え、近在地域で、七夕に因む祭礼（7月7日星田妙見宮、交野の機物神社などの七夕祭り）や農耕、修験道にまつわる祭り、（石切神社、箕面龍安寺）、さらに夏の浴衣を着始める浴衣祭り（愛染まつり）などが幾重にも繰り広げられ、大阪の夏祭りを一層豊かなものにしてきました。

このように大阪では多種多様な夏祭りが多くの神社、寺院を舞台に催されていますが、その担い手は決して、神社、寺院の神官や高僧ではなく、庶民であり庶民によって構成される地域コミュニティであったと言われております。われらが氏神さんのもとに老いも若きも、男女の区別もなく、社会の全ての構成員が祭りに結集し、祭りを盛り上げ、また、祭りに心のより所を見出し、長年大阪の歴史的習俗・文化としての大阪の夏祭りを支え、発展させてきたわけです。

今月の愛染さんから始まる大阪の熱い夏祭りを前にして、一度このような大阪の夏祭りの歴史に思いをはせ、改めて祭りに足を運ぶというのはいかがでしょうか。こうした大阪の貴重な伝統習俗・文化を絶やさず後世に残していきたいものですね。

（なお、本稿に当たりましては、大阪ブランドコミッティ「大阪の四季を彩る祭礼」を参考にさせていただきました。）

【甲状腺外科の専門治療を開始しましたー耳鼻咽喉・頭頸部外科ー】

4月から甲状腺外科の診療を充実させました。甲状腺腫瘍はもとより、バゼドウ病の亜全摘手術／全摘手術／RI内服療法、良性腫瘍手術、高度の慢性甲状腺(橋本病)の外科的治療、甲状腺悪性リンパ腫の診断、治療を行っております。

バゼドウ病に対する抗甲状腺薬の内服治療、軽度慢性甲状腺炎や腺腫様甲状腺腫などの経過観察は、当センターでは治療の待ち時間等を考慮させていただいて、「連携したかかりつけ医」や「近隣の甲状腺専門クリニック」をご紹介させていただいております。

専門診療には、必要に応じて、日本甲状腺学会専門医、日本頭頸部がん学会専門医、がん治療認定医、日本核医学学会専門医の資格をもった医師が担当します。

甲状腺疾患でお困りの場合は、ご遠慮なく当センターの専門診療をご受診ください。

かかりつけ医をお持ちの場合は、そのかかりつけ医に地域予約(紹介状つき)を取っていただくことにより、円滑にご受診いただけますのでよろしく申し上げます。

【震災被災者への医療支援活動が終了】

当センターは、大阪府の基幹災害医療センターとして、また府立の基幹医療機関として、このたびの地震発生当初から岩手県釜石市と大槌町の被災地に医療チームを派遣し、継続的な医療支援活動を行ってまいりましたが、現地の医療における診療が徐々に再開されてきたことから、こころのケアにあたっている精神医療センターの活動を除き、府立4病院による医療支援活動は、岩手県との大阪府の調整の結果、5月18日で一応の終了をみましました。

当センターは、3月11日の震災発生直後のDMAT隊2隊の派遣に続き、3月24日から5月にかけて、合計5チーム(医師9名、看護師9名、薬剤師5名、コメディカル及び事務6名)を派遣し、延べ26日間にわたり、現地の避難所等で診療にあたりました。

【診察予約変更センター設置ー今月から11の診療科において診察の予約日・時間の変更が電話でできるようになりました！】

当センターでは、今月から11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しました。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院

できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご活用ください。

なお、このサービスは初診に関しは行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表)にダイヤルして「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費の概算を予めお知らせすることを始めました】

昨年度実施しました患者満足度調査におきましては、入院時にいくら程度医療費がかかるか事前に教えてほしいというお声が多く寄せられました。

このため、当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）を5月から整備したことに合わせまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを開始しました。

お知らせさせていただく方法は、当面、患者さんにお渡しする「患者さん用クリティカルパス(治療計画書)」の中に記載してお知らせする診療科と、口頭でお知らせする診療科に分かれますが、最終的にクリティカルパスに記載する方法に統一をすることになっています。

【講堂・1階入院（やすらぎ）センターと各病棟談話室とを結ぶ

TV送信システムを整備しました！】

講堂や1階やすらぎ（入院）センターでは、これまで看護の日地のイベントや相愛大学連携コンサート、各種セミナーなど数々のイベントを開催しております。しかし、これまでは、講堂まで足を運んでいただかないとそのイベントを見たり聴いたりすることはできませんでした。

「見に行きたいけど、講堂まで行くのはつらい」と感じられる患者さんにとっては、これらのイベントを楽しむことはなかなかできなかったのが実情です。

このため、少しでも入院生活のつらさや苦痛を軽減し、やすらいだ気持ちを持っていた

だけよう、各病棟フロアの談話室のテレビ受像機でもイベントをみたり聴いたりして楽しんでいただけるよう、講堂や1階やすらぎ(入院)センターと各病棟談話室のテレビとを結ぶ送信システムをこのたび整備しました。

まず、手始めに5月16日の日本センチュリー交響楽団の室内アンサンブルコンサートをテスト送信したところ、やすらぎセンターに実際に足を運ばれた100人を超える患者さんとは別に、約40人の患者さんに談話室のテレビでコンサートを楽しんでいただきました。今月の第12回相愛大学連携コンサートから本格送信を始めることにしております。

今月の催し

【府民公開講座—骨粗しょう症～整形外科編～】

加齢とともに骨の量は減っていきます。骨粗しょう症は長年の生活習慣により、骨がスカスカ状態になり、骨折しやすくなる病気です。骨折すると日常生活に支障をきたし、手術が必要になることもあります。

そのため、今回は、骨粗しょう症にならないよう、骨粗しょう症についての正しい知識、予防法についての講座です。

日時 6月11日(土) 午後1時30分～3時(午後1時開場・受付開始)

場所 本館3階講堂

講師 整形外科 副部長 浅野 雅敏

申込 先着100名(参加費無料)

【大好評！！】

【相愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

日時 6月21日(火) 14:00～15:30

場所 1階エントランス 入院(やすらぎ)センター

糖尿病の基本や、食事の話など盛り沢山です！

1 糖尿病と歯周病

糖尿病代謝内科医長 畑崎 聖弘

2 私って太っている？

糖尿病看護認定看護師 後藤 博美

3 外食の工夫(中華編)

糖尿病療養指導士(管理栄養士) 笠井 香織

相愛大学人間発達学部栄養発達学科教官による「サッとシステム」を使用した食事診断も開催します。

また、希望者には血糖値測定を行います。

(参加費無料)

【今月のすこやかセミナー】

①続・皮膚に良いこと、悪いこと

日時 6月9日(木) 午後2時～3時

場所 3階保健教室

講師 皮膚科 主任部長 秋元 隆道

(参加費無料)

②麻酔のはなし—麻酔と睡眠はどう違うの？

『さかな』は吸入麻酔薬で麻酔されるの？ (公開実験あり)

日時 6月24日(金) 午前11時～12時

場所 3階保健教室

講師 麻酔科 主任部長 西村 信哉

(参加費無料)

【現代美術空間—病院ギャラリー 第4回(新)企画展—】

新しい企画展が始まります！

「やすらぎの木版作家—浅野竹二

初期情景版画展—新・京名所と新・大阪風景」

日時 平成23年6月24日(金)～12月22日(木)まで

場所 本館2階ギャラリー (入場無料)

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学んだ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。竹二は、その後1930年頃から木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表した作家です。

今回は、このような浅野竹二の作品の中で、初期(1930年代初め)の作品の「名所絵版画」の中から新・京名所と新・大阪風景を取り上げ、企画展を開催します。

なお、本作品展は、大阪府立現代美術センターのご協力で開催しております。

【現代美術空間—病院ギャラリー 第3回企画展】

—須田剋太『街道をゆく挿絵原画展—信州佐久平のみち・越のみち』開催中！

日時 平成23年6月23日(木)まで

場所 本館2階ギャラリー (入場無料)

【第12回相愛大学連携コンサート—ギャラリー新企画展開催記念】

—6月の楽器の音色は キラキラ水つぶに輝くアジサイの花—

～バイオリンとピアノのアンサンブル～

日時 平成23年6月29日(水)

場所 本館3階講堂

出演 バイオリン 田中 佑子

ピアノ 西村 奈菜

曲目 エルガー 「愛の挨拶」

ベートーヴェン 「メヌエット」

ドヴォルジャーク 「ユーモレスク」

マスネ 「タイスの瞑想曲」 ほか

【予告：第1回万代やすらぎ亭寄席】

桂 春団治一門 落語会

日時 7月27日(水) 午後2時～

場所 本館3階講堂

出演 桂 梅団治

桂 福丸

(ご協力) 「三代目 桂 春団治師匠を囲む会」

(入場無料。先着150名。参加者が多い場合は院内テレビでの観覧になります)

Topics

【23年度機器整備でPET-CTを導入！】

がん診療の拠点病院として、がんの診断機能を一層強化することを目的に、23年度の医療機器の整備の一環としてPET-CTを導入することになりました。整備時期は、年度後半になる予定ですが、詳細が決まり次第、本通信でもお知らせいたします。

【カレーショップオープン！ 今月から新メニューも】

先月号でお知らせしましたが、本館と中央館との間の連絡通路からの北側出口角に新たにテイクアウト専門・カレーショップ「えびすカレー」が5月9日にオープンしました。

今月からは、かつどん、カレーうどんなどに提供するメニューが拡大されます。また、地下食堂においても4月から塩梅なにわという新しい事業者による食事の提供も行ってまいりますので、こちらも機会があれば是非ご利用ください。

今月のコンシェルジュ

【リーダーからの今月のメッセージ】

こんにちは！ コンシェルジュです。

入院の当日、病棟まで行かれるのがご不安なかつ、お荷物がたくさんあつて病棟までのご移動が大変なかつは、お気軽に近くのコンシェルジュにお声をおかけください。

コンシェルジュがご一緒に病棟までご案内させていただきます。

その他のお知らせ

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。

なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。（ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですご注意ください。）このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、院内が

「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」

となるよう日々努力します。